

受講番号 19056 学校名 愛宕中学校 氏名 和泉 昭子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 33名
科目名 1年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 1

クラスの様子・特徴

学習規律が身についており、私語も少なく、落ち着いた態度で学習に取り組めるクラスである。和やかな雰囲気の中、全体として、指示によく従って、言語活動に取り組んでいる。

問題の確定

意欲的に言語活動に取り組み、基礎・基本の定着を図るにはどのような工夫をすればよいか。

予備調査

A 授業の観察

全体として、興味・関心を持って意欲的に取り組んでいるが、アルファベットの文字や、単語を構成する文字と音の関係に戸惑い、書くことが難しいと感じている生徒も少なくない。

B 生徒による授業評価

アンケート結果から、英語の学習でつきたい力として生徒は、話す力、書く力、読む力をあげ(4月)、学習をする中で一番難しいと思うこととして、書くこと(68, 7%)、話すこと(12, 5%)、読むこと、聞くこと(共に6, 2%)をあげている(7月)。

C 学力データ

1学期中間・期末テストの平均点はそれぞれ、88, 6点、78, 2点であった。両テストでの単語に関わる問題のうち、イラストの表す単語を自分で考えて書く問題(中間1問、期末2問)の正解率は共に66, 7%であり、単語の定着の難しさが表れている。

リサーチ・クエスチョン

中学1年生という英語学習の入門期において、学習への興味・関心、意欲を失わせることなく、一層喚起して取り組ませ、着実な基礎・基本の定着を図るにはどのような工夫をしていけばよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

授業にチャンツや歌を取り入れることで、英語の授業に興味・関心を持って元気に取り組むことができ、また、自然な英語のリズムが身につく、単語や文法事項の基礎・基本の定着にも効果的なのではないか。

実践1

英語のチャンツ本や歌本の中から、既習及び学習中の基本文や表現を含む、覚えやすく、ノリがよく、歌いやすいものを選んで授業の始めに歌うことにした。未習語には読みがなと意味を補い、必要と思われる場合には歌詞の日本語訳を載せると共に、単語をつないで発音するなどの英語らしく歌うコツにも注意しながら取り組むようにした。

検証1

全体として、大きな声で歌い、音読等の言語活動にも元気に取り組む様子が見られた。アンケートでも、75%の生徒がチャンツや歌の有効性に肯定的回答をしている。定期テストでの歌詞から出題された基本文の平均正答率は61, 5%であり、アンケートでは、80%以上の生徒が基本文の理解と暗記にチャンツや歌が有効だと感じている。ただ、定着となると難しい面がうかがえる。

仮説2

様々な方法で音読練習を繰り返し行っていけば、自然と暗唱にもつながって、基礎・基本の定着に有効であると共に、練習の成果を発揮する場として音読テストを行えば、より積極的に音読に取り組むことができるのではないか。

実践2

・個人、ペア、一斉等様々な方法で、教科書の既習及び学習中の範囲について、ほぼ毎時間音読練習を繰り返し行った。・繰り返し練習した範囲の中から、適当な部分を選んで、ALTによる音読テストを行った。

検証2

全体として、積極的に音読練習に取り組むことができた。一旦読み始めると教科書を見なくても英語が口をついて出てくるような感覚を味わった生徒も随分いたのではないかと思われる。アンケートでも、約70%の生徒が音読練習の繰り返しが基本文の暗記に有効であると答えている。また、アンケート結果より、音読テストの実施とその評価は積極的に音読練習に取り組もうという動機づけとして大いに有効であると考えられる。

仮説3

宿題とは別に、家庭における自主学習を促して頑張りに対する肯定的評価を行い、その成果を発揮する場として単語テストを行っていけば、書くことの反復練習の時間を確保して書くことに対する抵抗感を減らすと共に、基礎・基本の定着に有効なのではないか。

実践3

・単語テストに向けて、ノートを用いた単語や基本文の反復練習を奨励し、その頑張りに対してスタンプやシール等を用いて目に見える形での肯定的評価を行った。・出題内容と実施日を予め伝えおき、発音された単語及び基本文の綴りと意味を書くテストを行った。生徒のやる気を持続させるために、テスト結果に応じてシールを配布し、「頑張りシート」と称する台紙に貼らせる取り組みを行った。

検証3

アンケート結果より、スタンプやシールは単語を書いて覚えようという励みになると共に、単語テストの実施は反復練習を促し、英語を書くことに対する苦手意識や抵抗感を少なくすることに随分有効であると考えられる。単語テスト10回の平均点は79, 3点で、以前より単語が覚え易くなっているように思われるが、同問題の定期テストでの再出題時の平均正答率は中間77, 5%、期末50, 9%と、定着となると難しい面がうかがえる。

研究の成果

全体として、元気で意欲的にチャンツや歌、音読練習をはじめとする言語活動に取り組めてきている。最も難しさを感じていた「書くこと」について、単語テストの実施が反復練習を促し、大半の生徒が英語を書くことに対する苦手意識や抵抗感が少なくなってきたと感じていることも大きな成果であると思う。単語や基本文の定着の難しさが改めて示された面もあるが、入門期の工夫で学習意欲を喚起し、努力の素地を養うことが積極的な反復練習と書くことへの慣れを生み、基礎・基本の定着の礎として極めて重要であることを再認識した。

今後の授業改善の課題

生徒のやる気を持続させるために、また、意欲が足りず取り組みが不十分な生徒のやる気を喚起するために、どのような手立てが有効であるかについて考え、たとえば、単語の学習においてビンゴ等のゲームやクロスワードパズル等のクイズの要素を取り入れてみる等、楽しみながら学びつつ、基礎・基本の定着にも有効な取り組みの工夫に力を入れていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-822-5295